

ナスの害虫の発生に注意しましょう !!

気温の上昇とともに、アザミウマ類、コナジラミ類、アブラムシ類、ハダニ類、チャノホコリダニ、オオタバコガ、ハモグリバエ類の発生が増加してきます。微小な害虫を早い発生段階で確認することは難しいですが、多発生となってからは防除が困難になりますので、**圃場を丁寧に観察して早期発見に努めるとともに、発生初期からの防除を徹底してください。**

被害の特徴

- アザミウマ類**：ヒラズハナアザミウマは主に葉や花弁を、ミカンキイロアザミウマは葉、ヘタ、花弁などを、ミナミキイロアザミウマは、葉、果実、ヘタ、果梗などを加害します。発見が遅れると、葉にかすり状の傷ができ、激しい場合は茶褐色に変色し落葉します。果実ではガク部を中心に変色や亀裂を生じて、商品価値を著しく低下させます。
- コナジラミ類**：葉や株をゆすると、白い羽の微小な虫が飛びだします。直接吸汁することによる生育抑制と、排泄物によるすす病が発生します。
- アブラムシ類**：ワタアブラムシやモモアカアブラムシなどが、主に葉裏や葉の先端部に寄生します。多発生すると葉の表面に脱皮殻やすす病によるすすが付着し、生育が抑制されます。また、**各種のウイルス病を媒介するので、注意が必要です。**
- ハダニ類**：主に葉裏に寄生します。表は脱色してカスリ状に変色します。初期は下葉に寄生しやすいです。
- チャノホコリダニ**：生長点付近に寄生すると葉が奇形となる他、葉裏がツヤのある淡黄色に変色して裏側に巻き込み、激しい場合は芯止まりになります。果実は、ガクや果梗部分に変色し、果面がサメ肌状になります。**一度芯止まりになると回復に長期間を要します。**
- オオタバコガ、ハスモンヨトウ**：オオタバコガの若齢幼虫では新芽や花を食害しますが、すぐに果実内へ食入します。次々と新しい果実に移動し、茎の中にも潜入します。ハスモンヨトウは、主に葉を食害します。
- ハモグリバエ類**：幼虫が葉肉内を食入する被害（いわゆる「絵かき虫」）で、ナスでは葉が黄化して落葉しやすくなります。



アザミウマの被害



コナジラミ成虫



オオタバコガ幼虫



ハモグリバエの被害

(* 出典：茨城県病害虫防除所)



アブラムシ類



ハダニ類



チャノホコリダニ

表 1 ナス定植後の生育期における各種害虫の主な防除薬剤

(令和 6 年 6 月 27 日現在)

薬剤名	アザミウマ類	コナジラミ類	アブラムシ類	ハダニ類	チャノホコリダニ	オオタバコガ	ハスモンヨトウ	ハモグリバエ類	分類
アフーム乳剤	○	○		○	○	○	○	○	6
アグリメック	○	○		○					6
コロマイト乳剤		○		○	○			○	6
ディアナSC	○	○				○	○	○	5
モベントフロアブル	○	○	○	○	○				23
グレース乳剤	○	○		○	○	○	○	○	30
ファインセーブフロアブル	○	○タバココナジラミ類							34
コテツフロアブル	○ミカンキイロ・ミナミキイロ			○	○	○	○		13
ウララDF	○ミカンキイロ	○	○						29
プレオフロアブル	○					○	○	○	UN
コルト顆粒水和剤		○	○						9B
スターマイトフロアブル				○	○				25A
カネマイトフロアブル				○	○				20B
マイトコーネフロアブル				○					20D
プレバソンフロアブル5						○	○	○	28
アタブロン乳剤	○ミナミキイロ					○	○		15
カスケード乳剤	○ミナミキイロ			○		○		○マメハモグリバエ	15
モスピラン顆粒水溶剤	○	○	○						4A
ベストガード水溶剤	○ミナミキイロ	○	○						4A
スタークル粒剤		○	○						4A

注1. 表中のミカンキイロやミナミキイロは(アザミウマ)を略して表示しました。

注2. 分類欄には、IRACコードを記載しました。同一分類(コード)は作用点が同じなので、連用は避けてください。

- 農薬使用の際は、必ずラベル及び登録変更に関するチラシ等の記載内容を確認し、飛散に注意して使用して下さい。
- 営農 NEWS は J A 全農いばらき ホームページでもご覧になれます。